

令和5年度

租税教育実践発表会資料

石巻市立桃生中学校
教諭 和泉 悠真

1. はじめに

本単元は、中学校学習指導要領社会編の「B 私たちと経済」のうち、(2)「国民の生活と福祉の役割」に該当するものである。この中項目では、「国民の生活と福祉の向上を図るにあたり、市場の働きに委ねることが難しい諸問題などに関する理解をもとに考察する活動を通して、国民生活と政府の役割について関心を高め、課題を意欲的に追究する態度を育成すること」を主なねらいとしている。

本単元で学習する租税の役割や財政、社会保障の仕組みは、租税教育の要となる分野である。現在、日本は少子高齢化社会を迎えており、社会保障制度に多大な影響を与えている。年金などの支払額が高齢化で増える一方、保険料を負担する現役世代の人口は少子化で減少するため、現役世代一人あたりの保険料は増加していくことが見込まれている。このように、少子高齢化の影響で社会保障制度が将来にわたって持続できるかが大きな課題であり、支払いの増加に合わせて保険料や税の負担を減らすのか、負担を一定に保って支払いを減らすのかという選択をせまられている。

このような喫緊の課題に対して、財源の確保と配分という観点から、財政の現状や少子高齢化社会などの現代社会の特色を財政の持続可能性と関連付けて考察し、表現することにより、納税者として租税の使い道や配分の在り方を選択・判断する責任があることへの理解と関心を深めることができる重要な単元である。

2. 生徒の実態 (3 学年生徒 男子 20 名 女子 38 名 計 58 名)

本単元の学習内容に関するアンケートを行った結果、次の回答が得られた。(9月8日実施、回答者49名)

質問内容	回答	
① 税金と聞いて、何税を思い浮かべますか。	消費税…21人、関税…7人、所得税…6人、脱税…4人、増税…3人、納税…2人、その他(酒税、相続税、ふるさと納税など)…6人	
② 税金はどのようなことに使われていますか。知っていることを教えてください。	教科書など学校にあるもの、公共施設を建てるため、政治家や公務員の給料、年金、警察、消防、救急車、道路の整備、刑務所の運営、天皇陛下の生活費、防衛費、介護施設、子供の病院代、全員が必要としていること、国のため、社会保障や医療費、ごみ収集	
③ 日本の税金について、自分の考えに最も近いものを選んでください。	選択肢	理由
	○集める金額を減らすべき (36人)	自分に使われている実感がない、負担になって暮らしづらい、若者の負担が大きい、経済が回らなくなる、景気が悪化しそうだから、ひとり世帯や単身世帯の人は生活が苦しくなる、前の日本は低くても成り立っていたから、国民にとって意味のないことに使われている気がする、あまり多く集めないほうが考えて使うと思う、など
	○今のままでよい (9人)	変に変えたら面倒だから、あげても下げても国民は愚痴を言うから、使い道をもっと考えればよい、今より減らすのは難しいから、高いのは嫌だが少子高齢化なので仕方がない、など
	○日本には必要ない (3人)	物価が高くて大変だから、など
	○いまよりも多く集めるべき (1人)	ヨーロッパの国のように多く集めて国が豊かなところもあるから。

アンケートから、自分たちの生活に身近な消費税や、地理・歴史分野の授業で学習した関税などを税金として認識している生徒が多くみられた。また、税の使い道については、社会資本の整備や公務員の給与など、多様な用途が挙げられたが、公債について言及している生徒はおらず、政治家が無駄遣いをしているなど、否定的な認識を持つ生徒も若干名みられた。

日本の税金についての質問では、集める税金を減らすべきと考えている生徒が全体の70%以上を占めており、経済循環の妨げとなっている、自分たちのために使われている実感がわからない、といった考えが目立った。

3. 指導にあたって

本単元の指導にあたっては、現代社会の特色を財政の持続可能性と関連付けて考察し、表現することにより、主権者として租税の使い道や配分の在り方を選択・判断する責任があることへの理解と関心を深めることを目標とする。

アンケートの結果から、税に対してネガティブなイメージを抱いている生徒が多いことが分かった。そこで、生徒にとって身近な社会資本や公共サービスによる便益や、納税が行われないとどのような問題が生じるかを考察することで、納税の重要性を実感することができるようにする。また、財源の確保と再配分の観点から、少子高齢化社会における社会保障の充実・安定化とその財源の確保の問題をどのように解決していけばよいかを、自分の将来と照らし合わせながら考えさせることで、税の負担者としての自覚と課題解決に向けた意欲的な態度を育成していきたい。

4. 指導計画

指導計画（全4時間）

主な学習内容	学習目標	評価基準
1 私たちの生活と財政（本時）	税金がどのように使われているのかを理解し、税金の役割を自分の言葉で表現する。	税金が自分たち生活に欠かせないものとなっていることを、自分の言葉でまとめている。 【思考・判断・表現】
2 財政の役割と課題	財政が抱える問題に対する解決策を考察し、表現する。	財政が抱える問題に対する解決策を考察し、表現している。 【思考・判断・表現】
3 社会保障の仕組み	我が国の社会保障制度の仕組みについて理解する。	日常生活の中で利用している社会保障制度について理解している。 【知識・理解】
4 少子高齢化と財政	国民の生活と政府の役割について、少子高齢化による財政政策の課題解決に向けて、自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に関わろうとする。	国民生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決に向けて自らの学習を振り返りながら粘り強く取り組み、主体的に関わろうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】

3 本時の指導（1 / 4時間）

(1) 題材名「私たちの生活と財政」

(2) 本時の目標

税金がどのように使われているのかを理解し、税金の役割を自分の言葉で表現することができる。

【思考・判断・表現】

(3) 指導過程

段階	学習活動 Q：発問／A：生徒の反応	形態	指導・支援上の留意点 ●評価 [観点] 【方法】
導入	1. 事前アンケートの結果を確認する。 2. どのような税金があるのかを確認する。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果をクイズ形式で共有することで、本時の学習への関心を高めさせる。 教師の給与明細の控除欄や、コンビニエンスストアで購入したもののレシートを掲示し、どのような税金がどの程度支払われているのかを読み取らせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">税金はどのように使われているのか。</div>			
展開	3. 税金の使い道を考える。 Q「税金はどのようなことに使われているのか。」 A・学校の教科書 ・年金 ・道路の整備 4. 税金のない暮らしはどのようになるのかを考え、班でホワイトボードにまとめ、発表する。	個人↓全体 個人↓班↓全体	<ul style="list-style-type: none"> jamboard を用いて自由に意見を出させる。 生徒に1日の生活を振り返らせることで、自分たちの身近なところで税金が使われていることに気づかせる。 教科書の資料をヒントにして考えさせる。 絵画資料「税金のない世界」を掲示し、考える際のヒントにする。 税金によって運営されている施設・サービスを班で思い出せるように声掛けを行いながらまとめさせる。 税がないことで、町のどのような機能が成り立たないのかに注目させる。
まとめ	5. 「税はなぜ必要なのか」を、自己まとめに記入する。	個人	<ul style="list-style-type: none"> 本時の授業で学んだこと、疑問に思ったことについて記入するよう声掛けを行う。 まとめられない生徒に対しては、机間指導の際にキーワードを示す。 ●税金の役割について、自分の言葉でまとめ、表現しているか [思考・判断・表現] 【ノート】

(4) 評価

観点	評価基準		
	十分満足と判断される状況 (A)	満足できると判断される状況 (B)	努力を要する生徒 (C) への指導の手立て
思考・判断・表現	税金が自分たちの生活に欠かせないものとなっていることを、自分の経験と照らし合わせながら、自分の言葉でまとめている。	税金が自分たちの生活に欠かせないものとなっていることを、自分の言葉でまとめている。	税金のない生活や、税金によって成り立っている施設・サービスを一緒に確認し、イメージしやすくする。

6. 生徒の感想

- ・人々が安心安全に暮らすため。税金がないと警察や消防が機能しなくなる。また、インフラの整備もされないのであれた状態になってしまう。こうならないためにも税金は必要。
- ・街灯や電気、水など、住むための整備は税金でまかなわれている。税は高く、ニュースでも悪い情報しか流れないので、イメージが悪かったが、生活するために必要なので大切であることが分かった。
- ・税は道路の整備など様々なところに使われており大切だが、それでも集めすぎだと思う。
- ・税金がないと国の治安が守られないことが分かった。しかし、同時になぜ現代では増税をするのか疑問に思った。
- ・税金がないと、町の整備がされず、事件・事故が多発する。生活に絶対に必要なものだが、その使い道はもう少し考えるべきだと思う。
- ・私たちの日常の当たり前になっている様々なもの（救急車や町の整備）は、調べてみると税金が使われており、税金によって成り立っていることが分かった。税金の役割は、国民の生活を支えていることだと考えた。
- ・税金がなければ、自分たちが当たり前だと思っている世界が壊れてしまう。あればあるで面倒だが、道路や川、治安の良さは、税金がなくては成り立たない。住みやすい国にするには、少しの我慢も必要だと分かった。
- ・税金は自分たちを守るためとか、生活を豊かにするためにあると思う。だから政治家とかの飲み会などには決して使わないでほしい。
- ・税金がないと自分も周りの人も困ることが多くなるということが分かった。税金は集めた後の利用先をみんな考えてすることで、全員が気持ちよく生活できるのではないかと思った。

7. 成果と課題

授業実践を終えての成果と課題は、以下のとおりである。

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケートを基にしたクイズや、レシートなどの生徒にとって身近な実物資料を用いたことで、興味・関心を高めることができた。 ・絵画資料を用いることで、生徒が持つ税の用途の認識を広げることができた。 ・班でまとめた内容をほかの班に発表する活動を通して、自分たちの班では気づかなかった点を共有することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートでも授業後にも多く出た、「使い道をよく考えるべき」という意見を用いて、より深めることができたのではないか。 ・生徒の生活圏（石巻市や桃生地域）のトピックを取り入れることで、より意欲が高まっていたように感じた。 ・租税教室を活用することで、税に対するより深い知識を持ったうえで授業に臨むことができたのではないか。

8. 終わりに

今回の租税教育における授業実践を通して、生徒が税を身近に感じることができ、また税に対するネガティブなイメージを少しでも払拭することができたと考えられる。授業後に再度実施したアンケートでは、「税は日本には必要ない」と回答した生徒はおらず、「集める金額を減らすべき」と答えた生徒は減少した。授業後のまとめでは「なぜ増税が必要なのか」という疑問が生徒から生まれ、次時の内容につなげることができた。

一方で、税を生徒自身の将来と照らし合わせて、深く考えさせることができなかつたことが課題としてあげられる。「税は必要で、なくてはならないもの」という生徒たちの認識を、自らの生活や財政が抱える課題と結び付けて深く考えさせるためには、発問の精選やさらなる資料の充実が必要だと感じた。実際に、生徒たちの多くが生活している石巻市桃生町も過疎化・高齢化が進んでいるため、この問題を税の学習と関連付けて考察できる学習課題なども、今後設定していきたいと感じた。また、本単元を学習するにあたり、租税教室などを実施して税に対する知識を事前に身に着けることで、授業でより発展的な内容を扱うことができたのではないかと考えられるため、積極的に活用していきたいと思う。

今後の公民分野の授業では、人権や日本国憲法、民主政治についての学習を予定している。今回の税の学習で得た成果と課題を生かして、授業・単元の構成を行っていきたい。